

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和8年2月17日(火) 14:00~

場所 唐津青翔高校 産社室

参加者 学校運営協議会委員(11名) 本校職員(9名) 教育振興課(1名)

1. 1 開会(会長)

- ・唐津青翔高校(東松浦高校+唐津北高校)の20周年→新たな高校の姿に向けて。
- ・eスポーツ学科の新設や系列再編を経て、唯一無二の学校づくり。
- ・県の教育委員会と玄海町教育委員会との連携協定締結。

→県と町を上げて、青翔高校を盛り上げていきたい。

- ・コンソーシアム(玄海まるっと委員会)の立ち上げ。
- ・玄海みらい学園も、近年は海洋教育を行っている。最近も青翔に発表してもらった。

1. 2 あいさつ(校長)

- ・校長として赴任して1年、系列を中心とした系列の学びには、地域の協力が不可欠であることを実感。
- ・来年度に向けて、順調に準備が進んでいる→期待、不安という心境。
- ・青翔が特別というわけではなく、学校の環境は日々進化(変化)し続けている。

→学校運営協議会では、学校に対する新旧の感覚を共有することによって、より良い学校づくりを目指す。

- ・埼玉県坂野高校を視察(最初の総合学科)。
- ・制服はあるものの、服装や髪形は全て自由になっている。
- ・幅広い意見を頂戴して、充実した協議会にしたいと思っている。

2 学校評価 最終評価について(教頭)

・「令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価」シートを活用し、学校関係者からの「評価」および「意見や提言」を記入していただく。

- ・各項目について、各担当者が説明を行う。
- ・運営委員には説明を聞き資料に目を通してもらい、評価をしていただきたい。

①学力の向上(教務)

- ・朝の青翔タイムの活用、そしてTT、少人数の展開授業を積極的に行うことで、学力の向上を目指した。
- ・ICT利活用については、生成AIワークショップの開催および情報Ⅱの開講を通して推進した。
- ・「できることが増えている」という項目において数値の向上が見られることから、高校が行っている取り組みが生徒に届いていると判断できるため、良いことであると感じている。(委員A)
- ・「学力の向上」における成果指標として、「1年次生の80%以上が全商ビジネス文書実務検定3級相当の能力を身に付ける」が挙げられているが、この指標はどのようなものか。検定の内容や開催頻度など。(会長)

→目標設定の後に教科内で協議を重ねて、生徒に推奨するものを全商から日情検へと変更した。そのため、純粋な数値に基づいて成果を評価することは難しいが、「10分間に300字以上の速度でタイピングをすることができる」という観点では、概ね達成できていると評価している。(教務)

・「学力の向上」項目で比較すると、ICT利活用よりも基礎学力向上の方が高い数値を示しているが、達成度の評価は逆転している。これはどのように考えればよいか。(委員B)

→実施結果に記載している数値は、生徒に実施したアンケート結果となっている。達成度評価については、生徒の実態を観察し、その様子から1年次生の80%以上が全商3級程度の実力を身に付けていると判断して、A評価

としている。アンケートは生徒の自覚であり、実績ではない。(教務)

・学校現場も数値に基づいた評価を強く求められてはいるものの、実態として全てを評価することは難しい。数値を見ていただきつつ、学校側の感触として評価しているということにご留意いただきたい。(教頭補足)

②心の教育(教務)

【生徒が、自他の生命を尊重する心～】

・普段からの教育や外部講師を招いた講話などを通して、心の教育に取り組んでいる。生徒の評価と教職員の評価との間に大きな隔たりがあるものの、教育を確実にやっているという点において、B評価としている。

・生徒と教職員との間の差が気になる。どのような講話を実施しているのか。(委員C)

→SOSの出し方やSNSの使い方などについての講話を行っている。その他、1年次生を対象としてピア・サポートプログラムを実施するなど、以前に増して心の教育に努めている。(教頭)

・講話を聴いた結果全てをネガティブに捉えてしまい、逆に塞ぎ込んでしまった事例も知っている。学校としては、講話の内容を事前に確認しているか。(委員D)

→確認は行っているが、非常に示唆に富んだ指摘をいただくことができた。(教頭)

【いじめの早期発見、早期対応に向けて取組の充実】

・いじめの早期発見については、情報の共有を重要視している。校内での教育相談や警察などの外部機関との連携を通して、速やかな事態の把握に取り組んだ。しかし、なかなか表面化しないような事案もあり、思うようにいかなかったという気持ちもあるため、B評価としている。(生徒指導)

・いじめの早期発見に関するアンケート結果では、教師の9割が肯定的に回答しているのに対して、生徒の肯定的な反応は半分にも満たない。この乖離をどのように解釈しているか。(会長)

・最近のいじめは内在化する傾向が非常に強い。学校の認知したSNSイジメの重大案件は1つもなかったが、それが実態に即しているのかどうかは分からない。さらなる取り組みが必要。(教頭)

・生徒と教職員との間にある隔たりに加えて、生徒による「まったく思わない」という回答が1割を超えていることも見逃してはならない。命に関わる場合もあるような問題であるが、この状況をどう捉えるか。(委員E)

・担任などを通して生徒の状況を確認すると、「もう大丈夫」と答える生徒が多い。そのため事態は収束したと捉えることもあるが、数値で見るとこのようになっている。学校が把握できていない部分が大いと感じている。(生徒指導)

・他の学校と比べ、教員と生徒の距離が近く、相談しやすい環境であることが本校の特徴。そうした環境においても、アンケートの結果は芳しくないため、学校として向き合う必要がある。(校長)

【自己肯定感の醸成】

・近年の教育において、生徒の評価は自己肯定感を醸成するために行うものである、という位置づけがある。教育活動を自己肯定感の醸成に繋げることが重要であるという観点を持って評価していただきたい。(教頭)

・地域みらい留学1期生は、「せっかく県外から来たので、ここでしかできない学びをしてやる!」という気持ちを持って生活している。現在、入学時点と比べて大きな自信を持てるようになっており、1期生としての自負も強く持つことができているので、うまく取り組んでいると感じている。(CN)

・環境系列の生徒としか関りを持っていないが、たった5人の系列で、それぞれが個性を伸ばすことができたと思っている。餅つきのような大変な作業にも主体的に取り組んだ生徒がいた。(委員F)

③健康・体づくり(保健)

【望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成】

・授業や保健日より、青翔ニュースなどを通して食事の大切さを周知したり、地元の特産を用いた調理実習を行ったりしているが、数値としては目標を達成できていないため、B評価としている。

・朝ご飯を抜いても元気な人、スポーツドリンクとグミしか口にしないのに元気な人などもいる。その人が本当に健康なのかどうかという点については、アンケートへの回答結果よりも健康診断の結果などが必要になるのではないかと。目標の立て方と評価の仕方を考え直す必要がある。(委員C)

【綺麗で安心・安全な学校づくり】

- ・保護者や生徒による回答結果と職員によるものとの間に大きな隔たりがあるため、B評価としている。
- ・花植え活動は非常に良かったので、今年なかったのが残念だった。来年度からはまた是非行って欲しいと思っている。(委員 F)

④業務改善・教職員の働き方改革の推進(教頭)

- ・この項目は必ず含めなければならないとなっているため、他の項目と毛色が違うものの、入れている。
- ・民間企業だと、年休取得数が5日以下であったり、勤務時間が100時間を超えたりすると、罰金などが科される場合がある。そのくらい看過できない事態であるという認識を持って欲しい。(委員 E)

⑤特別支援教育の充実(保健)

- ・多くの研修を実施し、通級に対する理解も広め深めることができているため、A評価としている。
- ・診断は付いていないものの特性がある、という生徒が多く、特別支援教育の充実は急務となっている。できればR8年度から通級を開始したかったが、eスポーツ学科の立ち上げなどもあり、9年度からとなっている。それに向けて、学校全体で準備を進めていきたい。(教頭)

⑥唯一無二の誇り高い学校づくり(主幹)

- ・福岡の動物関係の専門学校に進学する生徒がいると聞いている。学校に水族館を作ることができれば、そうした専門性を高校生のうちから高めることができると感じているので、是非成功させて欲しい。(委員 G)

⑦キャリア教育・進路指導(進路)

- ・今週最後の進路ガイダンスを行って、その後アンケートを実施する予定となっているため、数値が用意できなくて申し訳ない。目標を「進路決定率」ではなく「希望進路決定率」として設定すべきだと反省している。進学を希望していたが急遽就職に変更した生徒などもおり、なかなかうまくいかない中で指導を進めている。進路としては正社員を勧めるものの、生徒がアルバイトを強くしている場合は、希望する進路を尊重することも考えなければならない。今年度の反省を踏まえて、来年度は企業の方々と触れ合える機会をもっと増やしたいと思っている。具体的には、就職のみに絞った進路ガイダンスを継続的に実施して、就職活動を行う際に具体的な将来をイメージできるような状態を目指していきたい。また、進学体制の整備も進めていく必要がある。
- ・近年、就職しても精神的な弱さを感じさせる若者が増えていると感じている。ダメなところを注意することが教育であるという考え方もあるが、それがネガティブな性格に繋がってしまうこともある。学校には、良いところを積極的に伝えて、自信を持ってのびのび生活できるような環境を作って欲しいと思っている。たくさんの大人と関わる中で、将来に対する具体的なイメージを持ち、自分の性格ややりたいことに合った仕事を選ぶことができれば良いと思う。(委員 H)
- ・eスポーツイベントなどを通して、学校に自分の子どもが在籍していなくても、たくさんの大人たちが学校に入って来ることができるような機会を作っていきたいと考えている。玄海町や唐津市はもちろん、その他の地域からもいろいろな人たちに関わっていただき、学校と連携できる企業の数を増やしていくことを目標にしている。そのような形で、民間企業だからこそできる関わりを作っていきたい。(委員 A)

⑧広報の充実(事務長)

- ・Instagramのフォロワー数・投稿数は、県内の学校で2位につけている。1位の学校は学校の規模が大きかったり、写真のみの投稿を行ったりしているため、実質的な稼働は群を抜いている。特に動画の再生数はかなり多い。アンケートの結果については、目標に届いてはいないものの、中学生や保護者に向けた広報は十分に行っていると考えているため、A評価としている。
- ・Instagramについては、在校生は案外フォローしていなかったり、投稿を見ていなかったりする。そのため、アンケートの結果にも違いが出るだろうと思う。(委員 I)

3. その他(教頭)

- ・次年度の委員継続の意向確認
- ・学校運営協議会への出欠を確認するための連絡手段